

概要報告

実施期日	7月29日(火) 【午後】
部会名	小学校 国語部会

テーマ 『説明文の文章の工夫を生かした書く活動 ～生き生きと表現する子どもたちを目指して～』

提案概要

今回の発表は、『アップとルーズで考える』の「読む」活動と、『仕事リーフレットを作ろう』の「書く」活動の複合单元である。まず、「はじめ」「中」「おわり」や対比表現、筆者の考えが明確に書かれているところなどに着目して筆者の文章の工夫を中心に考えさせていき、子どもたちに自分で文章を読み解いていく力をつけることを主眼に授業を展開した。そして、今度は自分が発信者として文章を書くとき、どうすれば読み手にわかりやすく伝わりやすいかを考えて、読み取りで学習したことを踏まえて文章を書く授業を行った。

「読む」から「書く」へつなぐ手立てとしての5つのポイント

- ・(はじめ-中-おわり)の役割を考える
- ・(中)を分ける→意味段落
- ・要点(キーワード)をおさえる
- ・接続語
- ・写真の効果

成果

- ・既習事項の確認
- ・子どもの実態に合ったテーマ選び
- ・表現の工夫
- ・上手く書けない子への手立て

課題

- ・文章構成図から筆者の工夫を読む
- ・「読む」から「書く」への意識の移行
- ・教師のねらいの明確化

研究協議概要

【協議の柱】

- 「読む」活動から「書く」活動へどのようにつなげていくか。
- 自分の思いを上手く書けない子への手立て。

- ① どのような発表会をとったのか。
→発表会はしていない。完成したリーフレットを参観日に保護者に見せた。
- ② 国語以外で、子どもたちが作文を書く機会はあるのか。あるとしたら、「はじめ」「中」「おわり」の形式に当てはめて書いているのか。
→朝のスピーチで原稿を書くことはやっている。「はじめ」「中」「おわり」もこの学習をしている期間を取り入れてやった。
- ③ 外国籍の児童へはどのような指導をしているのか。「て、に、を、は」をしっかり指導してあげないと、高学年へいくともっと大変になってしまう。
→外国籍だから「て、に、を、は」の使い方があやしいわけではない。
時間をかけて教えていきたい。
- ④ 「学校リーフレット」で何を書かせたいのか。評価のポイントは何か。
→説明文で読んだことを活かして、「はじめ」「中」「おわり」や対比、自分の考えを明確にすることなどを評価のポイントとした。
- ⑤ 「自分の好きな場所」をリーフレットのテーマにするときの「対比」の効果は何か。
→その場所の良いところ・良くないところを考え、対比の部分考えた。対比は「良さ」をより明確化した

のでよかった。

- ⑥ 子ども同士で助言・添削した時の様子を詳しく知りたい。どのようなアドバイスをして、書けない子どもがどのように書けるようになったのか。
→すでに書いている子がグループにいる場合はそのモデル紹介をして書き方を教えたり、友達のものを紹介したりして参考にさせた。
- ⑦ なぜ、リーフレットの写真を貼る位置が固定されているのか。
→教科書通りにした。
- ⑧ 「読む」から「書く」への意識の移行が上手くいかない子は、どのポイントでつまづいているのか。
→読み取りではできていたが、書きになると、どのように書いたらいいかわからない児童がいた。また、対比表を書く段階でも、観点が多くて混在している児童もいた。そこで、モデル提示をしてお手本を見せて書かせた。
- ⑨ 下書きでの教師のアドバイスは、どのような視点で見たか。
→アドバイスは、モデル提示を通して行った。
- ⑩ 「書く」学習について、子どもたちはどの時点で知ったのか。
→説明文の読み取りの時点で、子どもたちには書く活動のことを伝えた。
- ⑪ 教え込みすぎると、その子の良さや個性が消えてしまうのではないか。
→個性が消えるとは思わないが、教え込みすぎたかなとは思う。
- ⑫ テーマは自由でもよかったのではないか。
→子どもは何を書いているのか分からないので、今回はテーマを絞った。また、範囲が広いと指導しにくくなる。

まとめ概要

今回の授業の大きなポイントは、「説明文を読む」から「紹介文を書く」ということへつなげるということにある。「読む」という読み手から「書く」という書き手への意識の変換が難しく、実践を積み重ねてつく力である。説明文で、「はじめ」「中」「おわり」や対比表現、接続語、筆者の考えなどをしっかり読み解くことができたから、書く活動に移った時に、学習したことをふまえて書くことができた。

テーマ設定にも工夫が見られた。教科書の題材は実態から離れていたもので、関心のある身近なテーマを設定できたので良かった。子どもたちが書きたくなるようなテーマの設定が必要。まずは、文章を書いていることに対して意欲があるかどうかが大変である。その次に、段落構成や対比などを使う技能がついてくる。「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」という、教科書を超えた授業展開ができたと思う。